

## 平成17年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

### 【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校で学習した基礎的・基本的事項を中心に内容を精選して日頃の学習で積み上げられた基礎学力が検査できるように、また、単に知識量を問うのみでない問題作成に配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は294.9点で前年度と比べ1.1点下がったが、ほぼ昨年度と同じである。また、各教科の平均点については、数学の平均点が49.7点(昨年度60.7点)と昨年度に比して11.0点低下した点と、社会の平均点が62.0点(昨年度56.2点)と昨年度に比して5.8点上昇した点が目立った。また、本年度、社会の問題(第3問題の問7)に誤りがあり全員を正答扱いとする対応を行った。しかし、近年の平均点や得点分布と比較したとき、所期の目的はほぼ達成したといえる。

### 【国語】

文章を読んで大筋を理解する力、正しく聞き取る力は、中学校における学習の成果でよく定着している。自分の考えを文章に表そうとする意欲もうかがえるが、語彙力や正確な表現という点では個人差が大きい。今後も継続して言語事項の定着をはかるとともに、適切に表現する能力を高めるような学習が望まれる。

### 【社会】

抽出の結果、全問題の正答率(全員を正解とした問題を含む)が61%、全問題の3分の1強に当たる15問が正答率70%を超えているなど、歴史的な分野と公民的分野を中心に、中学校での基礎的・基本的な学習内容についての定着が見られる。一方、地理的分野を中心に資料から読みとる力にやや差が見られるので、一層の学習の充実が望まれる。

### 【数学】

数の計算や方程式を解くこと、図形に関する基本的な技能及び知識はおおむね定着している。反面、問題を読みとる力や数学的に表現したり処理する力については、個人差がみられた。今後は、これらの力を一層伸ばすとともに、継続して基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることが望まれる。

### 【理科】

語句で解答する問題や平易な選択問題での正答率は最高96.5%に及んだが、抽象的な要素を含む問題や実験の理解を必要とする問題では正答率が低く、30%以下であった。基礎的な実験や用語に対する理解は深まっているが、深く考察する力の不足によるものと考えられ、論理的な思考力と応用力の一層の育成が望まれる。

### 【英語】

英文を聞いて内容を理解したり会話の要点を聞き取る力、ある程度まとまりのある英文を読んでその概要を把握する力は身に付いている。一方、基本的な語彙を運用したり英文を構成する力や自分の考えや意見を英語で表現する力にはかなり大きな差が見られる。特に英語による表現力の育成が今後一層望まれる。